

「歴史総合(仮称)」の内容構成の考え方(検討素案)

当該科目を通じて育むべき資質・能力について、特にどのような思考力・判断力・表現力等(事象を捉える教科・科目特有の視点や考え方など)を育むか〔歴史の考察を促す概念の例:「継続と変化」「原因と結果」「類似と差異」等〕

歴史の転換等を捉えた学習の在り方〔転換期の軸の例:近代化～大衆化～グローバル化等、
学習対象となる時代〕

日本と世界の動きの関連付け〔世界における日本の位置付け〕

「地理総合(仮称)」との関係〔グローバルな時・空間認識の育成、地理歴史科としてのまとめ〕

高校生として共通に求められる資質・能力を確実に育む共通必修科目の設計と生徒の興味・関心や進路に応じた選択科目の設計(高大接続の観点を含む)

小・中学校社会科(歴史的分野)の学習との関係

その他、適切な指導がなされるための要件〔周知・広報、研修等〕

【参考】 現行高等学校学習指導要領解説における近現代の始まり

	近 代	現 代
世界史	18世紀後半(諸革命～)	19世紀後期(帝国主義と社会の変容～)
日本史	19世紀後半(開国前後～)	20世紀半ば(第2次世界大戦後～)

高等学校 歴史科目の今後の在り方について（検討素案）

現行歴史系A科目

課題

資質・能力

新科目のイメージ

世界史A

- 1 世界史へのいざない
- 2 世界の一体化と日本
- 3 地球社会と日本

関連付け

日本史A

- 1 私たちの時代と歴史
- 2 近代の日本と世界
- 3 現代の日本と世界

世界史や日本史の学習は大切だと考える生徒は増加。一方、近現代の学習の定着状況が、他の指導内容に比べて低い傾向。

世界史か日本史かの二者択一ではなく、グローバルな視野で現代世界とそこでの日本の過去と現在、未来を考える歴史認識を培うことが必要との指摘。

調べたことを発表させる活動や課題解決的な学習を取り入れた授業等が十分に行われていない。

自国のこと、グローバルなことを、横断的・相互的にとらえる力

現代社会の形成過程を理解し、その諸課題を考察する力

世界史必修から、我が国の伝統と向かい合い、今を知るための歴史科目の新設へ

持続可能な社会作りに参画する態度

国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚

自国のこと、グローバルなことが影響しあったり、つながったりする歴史の諸相を学ぶ科目「歴史総合」(仮称)

日本の動向と世界の動きを関連付けて捉える。
現代的な諸課題を歴史的に考察するため、近現代における、歴史の転換等を捉えた学習を中心とする

歴史の転換の様子を捉える「継続と変化」、因果関係を捉える「原因と結果」、特色を捉える「類似と差異」などの、歴史の考察を促す概念を重視する

歴史の中に「問い」を見出し、資料に基づいて考察し、互いの考えを交流するなど、歴史の学び方を身に付ける

< 参考 >

現行中学校社会科の歴史的分野の学習では、我が国の歴史の大きな流れの理解をねらいとしている。
(各時代の特色を捉える学習他)